総　　則

1　育成を目指す資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの充実

各学校においては、学習指導要領の改訂を踏まえて、改めて自校の教育目標を含めた教育課程編成の基本方針（例えば、「目指す生徒像」や「指導の重点」など）を捉え直し、必要な見直しを行うことが求められている。

学校のグランドデザインや学校経営計画に記される学校教育目標等の策定は、教育課程編成の一環でもあり、カリキュラム・マネジメントの中心となるものでもある。これまでも各学校で行われてきた学校評価において、目指すべき目標を、生徒にどのような資質・能力を育みたいかを踏まえて設定し、教育課程を通じてその実現を図っていくことは、カリキュラム・マネジメントの具体的な実践にもつながるものである。

そこで、自校にある「学校教育目標」や、その実現に向けた「教育課程の編成の方針」、「各種指導計画」、「校務分掌や予算の配当などの人的・物的な体制」が、自校の教育活動の質を最大限に高めることができるものとなっているか、教科等を超えて育成される学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応する資質・能力がねらいどおりに育成されているか、地域の人的・物的資源の活用について考えることはできないか、といった点について、学校として組織的、計画的、継続的に、その実施状況を把握して、改善を図っていく視点を持つことが重要である。

次の実践例は、自校の学校教育目標を基に整理した、育成を目指す資質・能力を適切に評価するためのルーブリックを作成するとともに、各校務分掌の運営計画や各学年の実施計画等に育成を目指す資質・能力を位置付けるなどして学校の様々な教育活動と学校教育目標のつながりについて、学校全体での共通認識を図った取組の例である。

■Ａ高等学校の取組

1　学校教育目標

(1) 意欲的に学び、主体的に判断し、自律的な行動ができる人間の育成

(2) 社会の変化に対応し、豊かに逞しく生きることができる人間の育成

(3) 探究心を持ち、協働して新たな価値を創造しようとする人間の育成

2　育成を目指す資質・能力

(1) 生涯にわたって学びに取り組む姿勢を持ち、学びから得た知識・技能を活かして自ら進んで社会に貢献することができる生徒として

ア　主体性　　イ　継続力　　ウ　判断力　　エ　表現力（行動力）

育成を目指す資質・能力を具体的な「力」等として設定

(2) 急速に変化する社会の中で、様々な変化に対応するための柔軟な心と逞しい身体を持ち、豊かな人生を築くことができる生徒として

オ　豊かな心（多様性受容力）　　カ　体力　　キ　問題解決力　　ク　社会性

(3) 社会の課題を敏感に察知し、他者との関わりの中で課題の解決について考え、新しい価値を創造しようとする意思を持つ生徒として

ケ　思考力　　コ　人間関係形成能力　　サ　創造力　　シ　想像力

3　育成を目指す資質・能力のルーブリック

	S	A	B	C
主体性	集団や社会における役割を理解し、自分の発言や行動に責任を持ち、**やるべき事を自ら見つけて、主体的に**行動することができる。	集団や社会における役割を理解し、**自分の発言や行動に責任を持って**行動することができる。	集団の中で与えられた役割を理解し、**自ら進んで**行動することができる。	集団の中で与えられた役割を理解し行動しようとしている。
継続力	あらゆるものごとに対して、到達段階を意識し、長期的な視点を持って**粘り強く**かつ継続的に取り組むことができる。	**あらゆるものごとに対して**、到達段階を意識し、**長期的**な視点を持って継続的に取り組むことができる。	取り組むべきものごとに対して、**到達段階を意識し**、継続的に**取り組むことができる。**	取り組むべきものごとに対して、継続的に取り組もうとしている。
想像力	未知のものごとに対して、**様々な角度から考察**し、**複数の視点**で分析した結果をもとに、自らの行動のイメージを構築することができる。	未知のものごとに対して、考察・**分析**した結果をもとに、自らの**行動のイメージを構築**することができる。	未知のものごとに対して、考察した結果をもとに、自らの行動を**考えることができる**。	未知のものごとに対して、考察した結果をもとに、自らの行動を考えようとしている。

それぞれの「力」等ごとに、ルーブリックを作成し、全教職員で共有

4　校務分掌運営計画

自校の育成を目指す資質・能力を踏まえて設定

◆生徒指導部

1　重点目標

(1)　自己肯定感を持ち、社会を逞しく生き抜く課題解決能力や豊かな心を育てる。

(2)　集団生活を通して、互いに尊重しながら共生していく社会性を育てる。

(3)　生徒一人一人が学校生活をより充実させようとする思考力・判断力・主体性を育てる。

(4)　生徒自ら心身の健康を心掛け、防災や安全に努める態度を育てる。

2　重点事項及び実施計画

	月	重　点　事　項	実　施　計　画	生徒の活動	身に付けさせたい資質・能力
前期	4	指導上の共通理解の確認 遅刻指導、挨拶の励行	【校内】服装規定提示、服装頭髪点検指導	・身だしなみ確認	判断力
	5	健康・教育相談 交通安全指導	【校内】自転車整備指導・点検 【校外】内科検診、尿検査	・自転車安全点検 ・検査の補助	社会性 主体性
	6	交通安全指導	【校内】服装頭髪検査 いじめに関する実態調査 【校外】自転車通学街頭指導	・身だしなみ確認 ・アンケート記入 ・安全運転の実施	判断力 課題解決能力 社会性

5　年次の目標・月別重点事項・実施計画

自校の育成を目指す資質・能力を踏まえて設定

◆３年次

1　重点目標

自ら考え、状況に応じた判断を下し、自らの言葉で話し、相手に伝えることができる生徒の育成に努める。

自己有用感を高めるとともに、他者を思いやることができる生徒を育てる。

2　月別重点事項・実施計画

学期	月	重点事項	実施事項	育成を目指す資質・能力							
				主体性	表現力	豊かな心	課題解決力	社会性	思考力	創造力	想像力
通年			朝学習（新聞講読）		○				◎		
前期	4	学級集団の再構築 進路実現に向けての準備	年次集会				○				◎
			新入生歓迎会・部活動紹介		◎	○					
			スタディサポート	○					◎		
			進路オリエンテーション・ガイダンス	○					◎		
			総合（課題研究）		○		◎				
	5	課題を解決していくことのできる学級集団づくり	生徒総会	◎				○			
			遠足準備				◎			○	

※◎印　重点的に育成を目指す資質・能力であり、各実施事項ごとに１つ設定

２　カリキュラム・マネジメントの工夫
～北海道高等学校「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進のための実践研究（SCRUM）」の成果から～

北海道教育委員会では、学習指導要領の改訂を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善やカリキュラム・マネジメントの推進などに取り組むとともに、その成果を普及し新学習指導要領の周知・徹底を図ることをねらいとして、平成30年度から令和元年度まで、北海道高等学校「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進のための実践研究（SCRUM)」（以下、「SCRUM事業」という。）に取り組んできた。

本事業における取組の具体として、育成すべき資質・能力の明確化や資質・能力を確実に育成するための教育課程の編成・実施、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、思考力・判断力・表現力の評価方法に関する研究を行った。

次の実践例は、ある研究指定校において、学校教育目標を基に育成すべき資質・能力を明確化するとともに、生徒の実態を踏まえ、育成すべき資質・能力と各教科等における指導を結び付け、教育活動の改善・充実を図った事例である。

１　学校教育目標と育成を目指す資質・能力の設定の工夫

学校教育目標を基に明確化した育成を目指す資質・能力をさらに、どのような場面でどのように生徒が資質・能力を発揮するかを具体化することにより、教員間での意識の共有を図る工夫が図られている。

○学校教育目標

１　誇りと自信に満ちあふれた社会の形成者として、未来を創造する力を身に付ける。
【自己肯定力】【行動力】　【創造力】【表現力】
２　地域を愛し、心身ともに自立した人間を育成する。
【郷土愛】　【自己管理力】
３　主体的に考え、協働し、真理の探究に努める。
【思考力】【言語力】　【分析力】【道徳心】

学校教育目標から、育成を目指す資質・能力を具体化する。

育成を目指す資質・能力が発揮される場面を具体化し、教員間での共有を図る。

○育成を目指す資質・能力（一部抜粋）

資質・能力	指　　標
表　現　力	ＨＲやグループワーク等の活動により、自分の考えを伝わりやすいよう工夫する力
郷　土　愛	総合的な探究の時間に地域を題材とし、課題の設定からまとめ・表現を行い、地域を理解する力
自己管理力	授業や行事の中で目標を理解し、最後に学習したことや自分の言動を振り返る力
思　考　力	ＨＲやグループワーク等の活動により、自分の考えを深め、広げて論理的に考える力
言　語　力	ＨＲやグループワーク等の活動により、自分の考えを他者に伝え、建設的意見を生み出す力
分　析　力	整理した状況から、事実を客観的に分析・検証し、結果を提案する力
道　徳　心	授業や行事において、自分たちで考え、話し合う活動により、道徳的に判断する力・心

２　生徒向けアンケートの活用

各教科等において、育成を目指す資質・能力を効果的に育成するために、年２回生徒向けアンケートの「資質・能力に関するアンケート」を実施し、指導計画及び指導の改善に役立てている。

○生徒向け「資質・能力に関するアンケート調査」（一部抜粋）

資質・能力	質　問　項　目
自己肯定力	自分には長所が　①ほとんどない　②あまりない　③少しある　④たくさんある
	高校生活には　①不満である　②やや不満である　③やや満足している　④満足している
	努力することは　①したくない　②あまりしたくない　③してもよい　④したい
行　動　力	自分には行動力が　①ない　②あまりない　③少しある　④ある
	自分なりの考え方が　①ない　②あまりない　③少しある　④ある
	自分にはリーダーシップが　①ない　②あまりない　③少しある　④ある
創　造　力	新しいことに取り組むのは　①苦手だ　②やや苦手だ　③やや得意だ　④得意だ
	何か良い方法がないかを考えることは　①苦手だ　②やや苦手だ　③やや得意だ　④得意だ
	やってみたいことが　①全くない　②ほとんどない　③少しある　④たくさんある
表　現　力	自分の考えを　①うまく言えない　②あまりうまく言えない　③時々うまく言える　④うまく言える
	説明することは　①苦手だ　②やや苦手だ　③やや得意だ　④得意だ

調査結果から、本校生徒には、次のような特徴が見られた。
○自己評価の高い項目
「授業の準備ができている」：3.5（自己管理力）、「公共のマナーを守る」：3.8（道徳心）
○自己評価の低い項目
「説明することが苦手」：2.1（表現力）、「自分にはリーダーシップがない」：2.2（行動力）

3　指導計画の工夫

生徒の実態を踏まえ、学習指導案に育成する資質・能力を明記することで、意図的・計画的に資質・能力を育成する工夫が図られている。

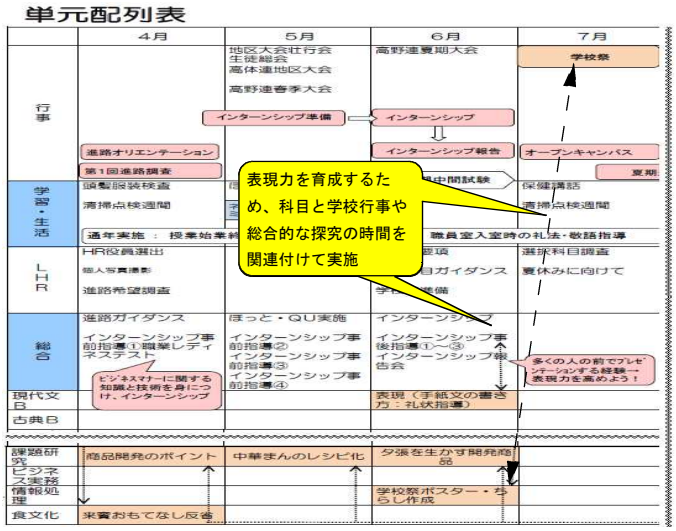
学　習　指　導　案

教　　科	情　報	科　目	社会と情報		授業者	◆　◆　◆　◆教諭				
日　　時	令和２年◆月◆◆日（◆）　第２校時			場　所	北海道Ｂ高等学校　ＰＣ教室					
実施学年	１年次必修　　１組　　男子　◆◆名　・　女子　◆◆名　　計　◆◆名									
単 元 名	発展　コンピュータがはたらくしくみ　２　アルゴリズムとプログラム									
指導目標	アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータを活用する方法について理解し技能を身に付けること。また、目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータを活用し、その過程を評価し改善すること。									
指導計画	最適なアルゴリズムを思考し、フローチャート図記号を理解しフローチャートを記述させる。フローチャートを参考にしてプログラミング言語でコンピュータを活用し自動実行させることができるようにする。					配当時間　５時間（本時は配当時間の第５時間目）				
本時の目標	・フローチャートをプログラム言語で記述し、コンピュータで自動実行させることができる。 ・繰り返しや方向転換の処理の活用方法を理解することができる。 ・自分の意見を述べ、建設的な話合いを行い問題を解決しようとする。									
育成する資質・能力	自己肯定力	行動力	創造力	表現力	郷土愛	自己管理力	思考力	言語力	分析力	道徳心
段　　階	学　習　内　容		学　習　活　動							

学習指導案に、育成すべき資質･能力を位置付けている。

4　教育課程の改善・充実

教育課程全体を通じて学校教育目標の実現に向けた各教科等の位置付けを踏まえ、学校行事やＬＨＲ、総合的な探究の時間、各教科の取組の関連などが一覧できる単元配列表を作成し、教科等横断的な学習を充実する取組を進めるなど、育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。



３　主体的・対話的で深い学びの充実

(1) 資質・能力を育む効果的な指導（第１章総則第２款３(6)ア）

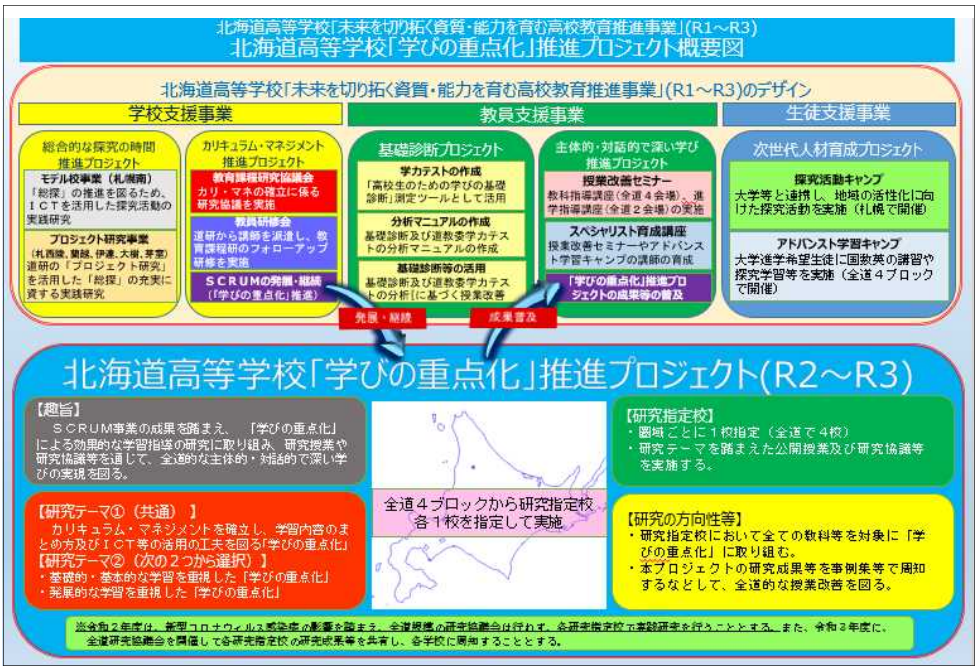
現行の学習指導要領では、各教科・科目の指導内容について、「各事項のまとめ方及び重点の置き方に適切な工夫を加えて、効果的な指導ができるようにすること。」を示しており、新学習指導要領においても、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、（中略）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること。」と示している。

これは、各学校において指導計画を作成するに当たり、各教科・科目等の目標と指導内容の関連を十分研究し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、まとめ方などを工夫したり、内容の重要度や生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導を行うことができるように配慮することを示している。

具体的には、教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的な事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することや、指導内容のまとめ方や指導の順序、重点の置き方などに創意工夫を生かして指導することなどが考えられる。なお、こうした工夫は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、その中でどのような資質・能力の育成を目指すのかを踏まえて行われるものであり、教える場面と考えさせる場面を関連付けながら適切に内容を組み立てていくなど、生徒の実態に応じて「学びの重点化」を図り、より効果的な学習指導に向けて授業改善に取り組む必要がある。

(2) 北海道高等学校「学びの重点化」推進プロジェクト（Ｒ２～Ｒ３）

北海道教育委員会では、ＳＣＲＵＭ事業や北海道高等学校学力向上実践事業の成果を踏まえ、令和２年度から、「北海道高等学校『学びの重点化』推進プロジェクト」を実施し、研究指定校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、研究授業や研究協議等を通じて、「学びの重点化」による効果的な学習指導の研究に取り組んだ成果を全道に普及することとしている。



各学校においては、研究成果を参考に、自校の授業改善に役立てていただきたい。

４　キャリア教育の充実

(1)　「キャリア・パスポート」の必要性

中央教育審議会は、平成28年12月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」の中で、学校教育においては、キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、これまで学校の教育活動全体で行うとされてきた意図が十分に理解されず、指導場面が曖昧にされてしまい、また、狭義の意味での「進路指導」と混同され、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないかとし、キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動のホームルーム活動を要としながら、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組の重要性を指摘した。

そして、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動において、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート」）を作成し、活用するが効果的ではないかと提案した。

(2)　「キャリア・パスポート」の活用の意義と課題

ホームルーム活動の内容「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の指導においては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動を行う必要がある。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等（「キャリア・パスポート」）を活用することが求められている。こうした教材を活用した活動を行うことの意義として、高等学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になること、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資すること、生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなることがあげられる。

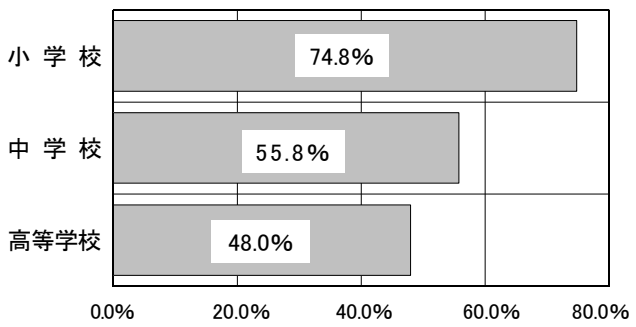
なお、「キャリア・パスポート」の活用については、令和２年（2020年）４月から、全ての小学校、中学校、高等学校で実施することとなっている。

国立教育政策研究所が進めている「キャリア教育に関する総合的研究」の第一次報告書（令和２年３月）において、「キャリア・パスポート」を作成していない学校は、小学校で約７割、中学校で約６割、高等学校で約５割に上っており、高等学校では他校種より作成状況が進んでいることが示されている。（図１）

同報告書によれば、中学校で蓄積されたものを引き継いでいる高等学校は0.9％と極めて低く、中学校との連携が進んでいるとは言いがたい状況にある（図２）。

この調査結果は、移行期間に先進的に取り組んだ学校の回答結果に基づくものであるものの、「キャリア・パスポート」の校種を越えて持ち上がる機能の充実については喫緊の課

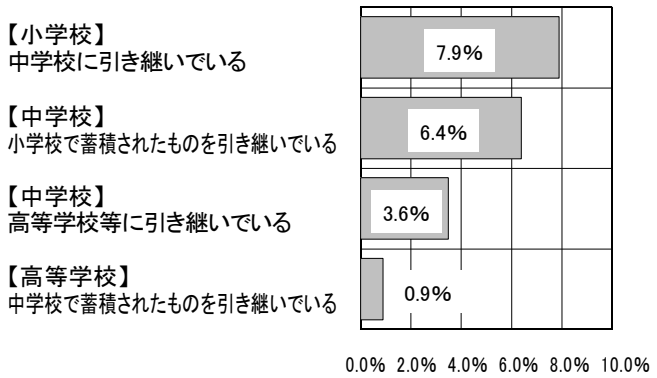
図１「キャリア・パスポート」を作成していない学校の割合



題となっており、今後、生徒理解を深めるため、中学校と高等学校が連携・協力し、異なる校種間を「見えるようにつなぐ」意識を持つことが重要である。

さらに同報告書では、「キャリア・パスポート」を用いて学期末・年度末などに振り返るための時間を設けていたり、生徒を理解するための資料として活用していたりする教員ほど「ホームルームでキャリア教育を適切に実施していく上で、『キャリア・パスポート』を活用することが重要である」と回答し、「キャリア・パスポート」を作成していない教員ほど、「重要ではない」と回答する傾向があることが明らかになった。

図２「キャリア・パスポート」の引継ぎの現状



「キャリア・パスポート」に先進的に取り組み、利活用した教員には重要性が実感されていることから、取組の更なる推進とその充実が重要である。

(3) キャリア・パスポートとして蓄積するワークシートの参考例

ここでは、高等学校卒業までの記録を蓄積する前提で、各学期の始めに、授業や学校行事、部活動、校外活動等をどのように取り組むかを記載させ、学期の終わりに振り返ることで、生徒が自らの成長や変容に気付き、各教科・科目等と学びが往還していることを認識するなどして、取組意欲の向上を図るためのワークシートの参考例を示す。

こうした学期や一年を通した振り返りのほか、学校行事での振り返りなど、キャリア教育に関わる諸活動について、生徒がワークシート等を活用し、定期的な振り返りを通して、自ら将来を見通すことのできる力の育成を図るよう、各学校の実態に応じて工夫した「キャリア・パスポート」を作成することが大切である。

ワークシートの参考例

○【学期始め】今学期の間に、取り組みたい（努力してみたい）ことを記入してください。

	授　業	学校行事	部活動、校外活動等
取り組みたいこと			
どのように努力するか			

○【学期終わり】今学期を振り返り、取り組んだこと（努力したこと）を記入してください。

	授　業	学校行事	部活動、校外活動等
取り組んだこと			
何を努力したか			

（　　）からのメッセージ

先生からのメッセージ及びメッセージから気付いたことや考えたこと

○ 全ての教科等を網羅的に書くのではなく、重点的に取り組もうとしている教科等について記載する。このため、どの教科等を記載するかでその生徒の志向が表れる。
○ 学校行事については、事前指導において、今学期に行われる行事を生徒に周知し、イメージを持たせる必要がある。

○ 友人、保護者、部活動の顧問等、メッセージをもらう相手を生徒が主体的に選ぶという工夫も考えられる。

個人情報を含むことが想定されるため、「キャリアパスポート」の管理は、原則、学校で行うことが求められる。

５　道徳教育の充実

～令和元年度北海道高等学校「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」から～

北海道教育委員会では、令和元年度において、新高等学校学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、生徒の自尊感情や規範意識を育むとともに、生徒が人間としての在り方生き方についての考えを深め、現代社会の課題に主体的に対応できる資質や能力を身に付けることができるよう、道徳教育推進教師を中心とした全教員による道徳教育の実践研究を推進するとともに、その成果について研究協議会等により全道に普及することを趣旨として、次のとおり「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」に取り組んだ。ここでは、指定校２校の実践例を紹介する。

■北海道高等学校「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」

◆趣旨

○ 生徒の自尊感情や規範意識の向上
○ 道徳教育推進教師を中心に道徳教育に学校全体で取り組む

◆取組の概要

◆学校全体の指導体制の整備

○ 全体計画、単元配列表の作成
○ 道徳教育推進教師の役割の明確化
○ 全教師による協力体制の整備
○ 遠隔システムを活用した指定校同士の連携

◆各教科等での実践

○ 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導方法等の工夫改善
○ 道徳教育の視点による授業
○ 就業体験やボランティア活動の充実

◆検証方法

○ 次のことについて肯定的に回答する生徒の割合の向上
・アンケートにおける自尊感情に関する問い
・「子ども理解支援ツール『ほっと』」における規範意識に関する問い
・いじめの把握のためのアンケート調査における「いじめは許されない」の問い
○ 教員による評価、家庭や関係機関対象の評価において、生徒の自尊感情などに肯定的な回答の割合の向上

■　研究推進校（Ｄ高等学校）の実践例

【実施計画】

月	実施内容
6	ボランティア活動
7	道徳教育の全体計画の見直し 単元配列表の作成 「ほっと」実施（第１回）
8	「ほっと」の分析に関わる校内研修
9	学校視察、評価会議
10	いじめアンケートの実施、公開授業
11	「ほっと」分析会
12	「ほっと」実施（第２回）、学校評価
1	「ほっと」分析会、 いじめアンケートに関わる校内研修
2	評価会議
3	次年度道徳教育全体計画、 単元配列表の作成

【道徳教育推進教師の役割の明確化】

○ 各種調査などの結果から、「道徳教育に関するビジョンを立て、各学年や教科における計画策定へとつなげる役割」と設定
○ 道徳教育通信を用いて、各教科の目標や内容に含まれる道徳的価値を周知しながら授業の実践に役立てる。

【「考え、議論する道徳」の実践】

○ 授業において、第１回の「ほっと」の分析結果を踏まえ、生徒の数値が低い項目について、向上が図られるよう教職員に依頼した。
○ 「保健体育」において、望まない妊娠や人工妊娠中絶で苦しんでいる人々の思いについて考え話し合うことで、いかに生きていくかを考えさせる活動を行った。
○ 「LHR」において、学年全体で卒業記念品を何にするか考える取組を通して、自分たちのことは自分たちで決定するという意識を高める取組を実践した。

■　研究推進校（Ｅ高等学校）の実践例

【実施計画】

月	実施内容
6	事業計画の立案
7	学級満足度に関する調査の実施（１回目）
8	全体計画、単元配列表の内容検討 「ほっと」実施（１回目）
9	全体計画、単元配列表の作成、公開授業
10	協力校との遠隔システムを活用した意見交換
11	道徳教育研究会の開催
12	教育課程研究協議会での研究成果報告
1	学級満足度に関する調査の実施（２回目） 「ほっと」実施（2回目） いじめ把握のためのアンケート調査
2	学級満足度に関する調査結果の分析 各種調査・評価指標の分析
3	事業内容のまとめ 研究成果を学校ウェブページに掲載

【全体計画作成のポイント】

○　学習指導要領に示された道徳教育の配慮事項について次のように捉え直し、道徳教育を推進した。
・最初に学校のグランドデザインを見直し、道徳教育と関連付ける。
・学校の特色ある教育活動を道徳教育と関連付ける。
・新しい取組ではなく、これまでの取組を道徳的視点でつなげ直していく。

【養護教諭による公開授業】

○　ホームルーム活動において、養護教諭が授業を行った。
・目標：色々な性があることを知り、その違いや特性を肯定的に理解し尊重できるようになる等
・関連する道徳的価値：自他の尊重
・学習活動：身近な場面で男女で区別されていることに気付かせ、自分の性について考えさせる活動等

【単元配列表の作成】

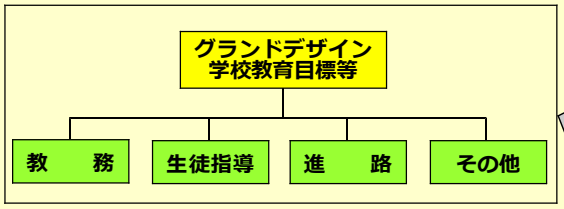
		項 目	内　　容	
		小・中学校における内容項目	1　主として自分自身に関すること	2　主として人との関わりに関すること（コミュニケーション）
		高等学校における配慮事項	自立心や自律性を高め、規律ある生活をすること	義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を育てること
		道徳的価値	向上心、個性の伸長	人間愛、他者理解
			自己理解、自己肯定	人格の尊重、多様性の尊重
			自主・自立、誠実・責任、危機管理	友情、信頼
			望ましい生活習慣、節度・節制	共感、寛容
			粘り強さ	協力、思いやり、感謝
年次	教科	科目	よりよく生きる喜び	礼儀、時と場に応じた適切な言動
1	国語	国総（現代文）	小説「羅生門」	小説「夢十夜」
1	国語	国総（古典）		

（Ｅ高等学校の単元配列表の一部）

○　次の考え方を基に、単元配列表を作成した。
①断片的な活動をつなげていく。
②表面的な活動を多面的に深めていく。
③一過性の活動を継続的な活動にする。
④見えにくい指導を、見える化・共有化していく。

○「指導の見える化」を図るために、次のことを実施した。
①校内研修を実施し、単元配列表の作成を依頼
・各教科・科目から「道徳教育」に関連のある単元を抽出する。
・学年の実施予定時期、単元の内容をリスト化する。
②育てたい道徳的価値の設定
・中学校学習指導要領に示されている道徳的価値を再確認する。
・学校のグランドデザイン及び学校教育目標から道徳教育の柱を設定し、特別活動や各教科に反映させる。

【道徳教育推進教師の役割】



（E校の分掌イメージ図）

○道徳教育推進教師の選定
・「どのような道徳性を身に付けるか」により決定している。
・学校全体で取り組むためには、組織として取り組む必要があり、必ず分掌の部長や主任である必要はない。

○　道徳教育推進教師の役割
①全体計画及び年間計画の作成
②単元配列表の作成
③研修会・研究会の設定
④指導、評価方法や教材の研究及び情報発信
⑤公開授業の設定
⑥道徳に関わる授業評価の推進・活用
⑦外部人材との連携・コーディネート

○　特に中心的な役割を担うもの
①学校における道徳教育の進め方を明確にする。
②学校全体で取り組めるようにする。
③PDCAサイクルや授業評価を活用した検証を行う。

６　北海道公立高等学校（中等教育学校後期課程含む）令和２年度入学者教育課程編成の状況

注：中等教育学校は、全日制課程普通科に含めている。

○資料１
「学校設定科目」の設定状況（全日制）

課程・学科 年度	全日制課程 普　通　科	全日制課程 総 合 学 科	全日制課程 専 門 学 科
令和２年度	１４９校	１６校	５８校
令和元年度	１４９校	１６校	５７校

○資料２
「学校外における学修の単位認定」の状況

	海外留学	学校間連携	大学、高専、専修等	技能審査の成果	ボランティア活動等	高卒認定試験	定通併修
全日制課程普通科	３９校	６校	２８校	７７校	３０校	１校	０校
全日制課程総合学科	６校	４校	１０校	１６校	２校	０校	０校
全日制課程専門学科	１０校	２校	９校	４３校	１０校	１校	０校
定時制課程普通科	６校	２校	４校	２３校	１４校	１５校	１３校
定時制課程専門学科	２校	３校	２校	１４校	３校	５校	１校

○資料３
「類型を設定している学校（全日制）」の状況

	第１学年から	第２学年から	第３学年から
普 通 科	１校	６０校	１７校
専門学科	１校	２２校	１校

○資料４
「履修と修得を分離している学校」の状況

	全日制課程 普　通　科	全日制課程 総 合 学 科	全日制課程 専 門 学 科	定時制課程 普　通　科	定時制課程 専 門 学 科
校　　数	７５校	１６校	２８校	１１校	７校

○資料５
「学期の区分ごとの単位修得の認定を行っている学校」の状況

	全日制課程 普　通　科	全日制課程 総 合 学 科	全日制課程 専 門 学 科	定時制課程 普　通　科	定時制課程 専 門 学 科
校　　数	４３校	１３校	９校	５校	５校

○資料６
「２学期制を実施している学校」の状況

	令和２年度	令和元年度	平成３０年度	平成２９年度
全日制課程	１９４校	１９１校	１９２校	１９１校
定時制課程	３５校	３５校	３５校	３５校